校友時報

昭和43年5月25日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

今年度予算決定す

乱れた生徒総会

去る五月一日、体育館で生徒総会が開かれ昭和四十二年度決算報告、並びに四十三年度の予算審議と承認が行なわれた。

予算審議では、まず総務局の会計部の事で論争された。会計部の中の需要費が昨年度予算は八万円だったが、実際に昨年が使った金額は、その半分の四万二千円であった。だが、今年度の予算額も昨年と同じ八万円なのである。しかも、昨年この需要費を利用した項目は、生徒や職員の見舞金や香典だけである。それが実際は使う金額の二倍というのは、確かに納得のいかない所である。また、新聞部の購読料の年間五万円徴収廃止案が出され、多くの賛否両論の結果、廃止に決定した。もう一つは応援団の事である。団長と副団長が企画部と立ち合って決めた予算であるのだが、それでも、この予算をこのまま通すべきかどうかということでも少しばかり論争された。そしてもの一度審議しようではないかという意見も出されたが、結局はこのままの予算で通った。

やはり全体的には昨年とほとんど同じで、所々もめただけで可決した。今年の収入の方は、合計二百九十八万円。昨年の収入は、二百七十八万円である。昨年に比べたらいくらかは多い。だが今年は体育後援会補助金が一円もなく、また今年は昨年より新入生が減ったため新入生入会金、並びに生徒会費の方も昨年より少し減った。

予算の方では、昨年より増加したクラブが、体育、文化ふくめて十七もある。目立つのは、吹奏楽部の二万円増、硬式野球部の四万円増、軟式野球部の一万円増、排球部の一万円増、無線部の四万一千円増など。なお、今年から無線部は科学部と離れ一つのクラブとして独立して予算をもらった。今年の無線部の増加の理由は昨年までほとんど個人の物を使っていたため少なかったのである。

最後に、生徒会の方の話しによると待望の能高祭は、九月に行なわれるそうだ。その時に使われる予算は十五万と予定されている。

昭和43年度 能代高校生徒会予算

項目		本年度	昨年度
前年度繰越		247 886	−22 476
生徒会会費		2 664 000	2 688 000
新入生入会金		72 600	74 800
PTA補助		0	48 000
合計		2 984 486	2 788 324
総	務局	1 437 600	1 354 334
	企画部	496 600	444 334
	会計部	926 000	916 000
	予備費	20 000	14 334
文	化局	531 056	472 130
	弁論	7 166	8 075
	文芸	45 000	42 500
	科学	19 500	44 300
	音楽	20 490	11 640
	絵画	33 030	27 000
	書道	22 010	27 500
	新聞	103 000	110 000
	吹奏楽	177 000	156 900
	演劇	45 360	37 760
	写真	16 850	12 450
	無線	41 650	
体	育局	965 830	871 270
	硬式野球	290 050	250 400
	軟式野球	64 500	54 630
	庭球	77 000	70 000
	籠球	58 650	58 000
	排球	93 000	83 500
	体操	47 600	41 940
	陸上	82 960	86 760
	柔道	53 000	48 940
	剣道	96 000	90 000
	スキー	53 570	44 500
	卓球	49 500	42 600
応	援団	50 000	42 590
計		2 984 486	2 788 324

部説

生徒総会は生徒には最高の議決機関である。それが前日に開かれる予定が出席者が全会員の三分の二に満たずに流会となった。総会に対しての生徒の無責任、無関心をまざまざと見せつけられ、総会に対しての大きな不安をいやというほど感じさせられた。ところで、ようやく開かれた総会も延々と、四時間にわたって行なわれるほどであった。

今年度の生徒総会は多くの時間を費やし、全校生徒に関係の深い問題を、例年よりも多く話し合ったのは立派だったと思われた。しかし、今年もまた一部の生徒だけで総会を行なった感じがしないでもなかった。一部の生徒は最後には水掛け論を行なうようになり、一般生徒の立場も考えずに長時間を浪費した感じがある。あまりにも総会が長くなりすぎたので、一般生徒はあきあきしたのではなかろうか。四時間という時間を費やした割には、決定したのは新聞部の購読料の五万円削減と応援団の二十人分の予算編成問題だけであり、成果はあまりなかったのではなかろうか。

波紋残す生徒総会

ところで、議事が大幅に混乱したのはどうしてだろうか。一つの問題として動議があまり多く提出され、聞いている生徒は生徒会の組織もよく理解していなかったので、ますます混乱した。議長はあの場合仕様なかったかもしれないが、もう少し、全体を統制するために、質問者と答弁者とを制限するようにもっと早く、生徒に求めるべきではなかったろうか。

また、質問者の内容を答弁者はしっかり理解してから大きな声でマイクに向かうべきだった。答弁者は立派な答弁をしたかもしれないが、後までは周囲のざわめきのために聞こえなかった。質問者が前列の人と、各部の代表だけのようであったのはこれを示しているのではなかろうか。その中で一年生数人が堂々と自分の意見を述べたのは立派だったと思われる。特に二、三年生は大いに質問すべきだったと思う。いつまでも消極的な態度を取っていては、生徒総会を盛り上げることはできないだろうと思われた。

最後にいちばん強く感じられたのは、生徒の総会への関心が非常に低かったことだ。第一、生徒会の機構、活動状態、役員の名前をどれほど知っているだろうか。それについて、役員が協力を促す態度が弱いのは不思議なことだが、生徒会を、どのように考えているのだろうか。ただ、賛成か反対かを表示すればよいと思っているのだろうか。考える必要がある。

いずれにせよ、総会を盛り上げるためには、会員全部が生徒会、各クラブ名、活動状態をもっともっとよく知る必要があるのではなかろうか。

○　○　○　○

マンネリ打破をめざして

会長に畠山君，副会長に三浦君

今回の選挙は、ある程度の活発な選挙戦が予想されたのにもかかわらず、立候補者が不足し、生徒会長、副会長が一名ずつという低調な選挙戦であった。

また、何か選挙に対して、生徒の無関心さが感じられた。

なお、投票結果は次の通りである。

生徒会長　畠山義彦
信任四三四
不信任二八七
副会長　三浦隆
信任三六三
不信任三六〇

生徒総会議長　浅野秀剛　得票七〇一
副議長　瀬川真　得票六一五
生徒委員会議長　西村健
副議長　石山明義
会計監査委員
平川賢悦　得票六一六
相沢雄治　六〇八
後藤和夫　六三七
選挙管理委員長　高橋友己
副委員長　井島辰也
書記　珍田七生
能登信子
総務局
企画部長　能登宏光
副部長　平川賢悦
応援団幹部
団員　安井導憲、藤井恵一
高山金悦、水沢英二
高田均、袴田昭夫
佐々木正悦、米森昭二
野呂文広、笹村弘文
大山寿、細谷宏和
田村信紀、渡辺光男

予想以上の献血の成果

去る四月二十六日（金）にJRCの招きで県の献血車あかつき号が本校生徒を対象として献血があった。係のほうでは予想以上の献血の成果に驚き、ある三年生のクラスではほとんど授業が行なわれないほどだった。中には今度が二度目の人も多くみられた。

時評

明治百年に思う

—誰も眠ってはならぬ—

高橋克次郎

国破れて山河あり、焦土の中から祖国再建の悲願を見事果し、好戦国民の汚名を拭い去り、持前の律気な勤勉に物いわせて超一流国を目指して、力強い歩みを進める新生日本の姿をイヤと言う程思い知らされる近頃のマスコミに、我々は耐乏型から一転して生を楽しむ勤勉へ向っているような錯覚に幻惑されることがよくある。

没我精神の下、生命軽視のファシズム、その暗い時代から解放された日本民族のたどった道が、ベ戦争に手を焼く米国の癇に障る程の奇蹟の復興である。その問理想憲法の下に、幕末を再現する尊攘運動が「平和」問題を軸に激しく展開されながらも太平ムードの明治百年を迎えたのだが、このムードに対する風当りはかなり強い。

かって平安朝下和魂漢才が、下って明治開化期には和魂洋才が賞揚され、戦後は富裕な米文化の洗礼を受け、清教主義を素通りしたまま生活の隅までアメリカナイズされているのが現状である。縮訳化され即席化され能率化され、努力をしないでレジャーにとびつく無定見が横行する。望蜀の人間欲望をかりたてる商業主義、我子を可愛がり与え過ぎ干渉しないが自由と弁え、親権行使を怠る家庭、八方破れの自由に酔う一群の若者、電化生活と受験戦争の中で教育ママの台頭、価値観の激変に傍観する大人達。よくよく見ればリモコン作動の全学連が、「怒れる若者」を演じ、組合運動の模倣が学園にまで巾を利かす。産業界は春闘から年末闘争へ年中なれ合い行事の中で購買力低下を防ぎつつ、国際競争に立向うべく資本結合を実現して行く。大企業の下に無数の中小企業という系列に目をやると、教育の普及と労働人口の不均衡の問題が絡んで、暗さを一掃した農村に流出人口の悩みを与えている。

「失なわれた世代」の大正っ子は行動的昭和っ子と骨太の明治っ子にはさまれて、多分に事勿れ主義だが、国籍喪失型思考には断固反対、トバッチリは当用漢字にも及ぶ始末。

内外の区別を明らかにして独立を全うする平和国家の内情は、軍事力から経済力への国力を背景に、闘争主義が渦を巻いて東西会合の文明に進むかの如くである。（社会科担当）

論点

高校生ともなれば自我意識が芽ばえ、またそれぞれ「自分はこういった生き方をしよう」とか「人生観」とかいうものが、おぼろげながらあらわれてくる時期であろう。▼それにより、個人の主観の相違や自分の意見、考え方の違いも多いに見られる。ある人にはどうしても考えることができない論旨や意見を持ち、聞く人に「こういう意見もあるのか」という感じをいだかせるような人も出てきて決して不思議なことではない。それにより生徒間のディスカッションで意見の対立をちょくちょく見ることがある。また先生方に対してもときどき意見をぶつけ合う。これらはどういう内容にしろ、若い我々の特権であり、また今の時期でなければ一生できないともいうべきものであろう。だがこれに伴ない、感情の対立もよくみかけるが、〃若い〃からこそ、あまり良いことではないが、できることである。▼意見のぶつけ合いはよく水掛け論となることが第三者の目からみるとおうおうにしてある。聞いている人には〃くだらねえナ〃と思われることでも、また結局当事者たちにしてみてもなんの得にもならないと思うが、「自分はこういうことを主張したぞ」ということで満足し、更にこの次は立派に自分の意見の理論を通してみせるということで本を読むだろうし、なんらかの勉強もするだろう。▼しかしそれらのことが単なる〃自己満足〃であってはならない。それは多分に「自分以外この意見を述べれる者はいない」といった者や、人の話を良く聞かないで利己的に話しを進めるのは感心できない。別に言っている本人はあまりそんなことを感じることは少ないと思うが、このことはちょっとした危険をはらんでいるといえるだろうが、時がたてばいつかはそれに気が付くことがあるだろう。▼とにかくディスカッションをすることは成長期の我々にとって大いに肉づけとなることであろう。

学生のみせ
学用品
キムラヤ
はたまち2－5535

!!お食事ならここで
なんでもうまい!!
※　※　※　※
駅前食堂

正確なメガネ
書きのよい万年筆
カモヤ
畠町T2－3746

各種雑誌・参考書
書籍の豊庫
一長堂
畠町T2－4124

おいしいお菓子
小杉山
東町　T2―5542

写真は技術の
佐藤写真館
大町T2－2433

澄みきった空で………
おもいっきり………
スポーツを………
スポーツ用品店
能代スポーツ
柳町T2―4613